

特集

数から算数へ

算数・数学，心理学の実験実習の統計処理など，数の操作に苦手意識のある人は少なくないと思います。この場合，文章題か分数のあたりが最初の苦い記憶ではないでしょうか。

しかし，「タロウ君は，りんごを3個とみかんを4個買いました」などと黑板に書かれる以前から，数とのつきあいは始まっています。1 + 1のような簡単な数の変化は乳児期から理解しているという実験があります。また，幼児教育の場でも「身近な事象を見たり，考えたり，扱ったりする中で，物の性質や数量，文字などに関する感覚を豊かにする」「日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」（文部科学省「幼稚園教育要領」，2008）ことが求められ，これが後の数の操作を支えることにつながっています。

今回の特集では，保育の場での生活・遊びや実験の中での数，小学生の教室場面での文章題，個別対応に必要な算数障害と，4人の先生方に実践事例を含めてご執筆頂きました。幼児期～児童期にみられる数概念の発達とその支援について，改めて考える機会になればと思っています。

（大神優子）